

令和8年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	18	議席 番号	21	氏名	諏訪部 孝 敏 議員	1 / 1
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
1 防犯灯の設置状況について				市民の安心・安全を守る上で、夜間の見通しを確保する防犯灯は欠かせないインフラである。特に、高齢者の転倒防止、通学路の安全確保、犯罪抑止など多方面で重要な役割を果たしている。富士宮市では現在、約13,000灯の防犯灯が設置されており、その多くを自治会が設置、維持管理している。また、市は自治会に対し、設置補助や電気料助成を行い地域の防犯活動を支援している。 この仕組みは、長年、市民の安全を支えてきたが、近年の地域構造の変化や自治会加入率の低下、役員負担の増大などにより、従来の仕組みだけでは対応が難しくなっている地域も見受けられる。そこで防犯灯の現状と課題、そして今後の改善策について伺う。 (1) 防犯灯の現状と課題、改善案について。 ① 市内に設置されている防犯灯の総数について。 ② LED化の進捗状況について。 ③ 自治会による設置、維持管理の割合について。 ④ 市が行っている補助制度の内容について、これらの最新の状況を伺う。 ⑤ 地域格差の解消について。 ⑥ 自治会負担の軽減について。		市長 副市長 教育長 関係部長
2 富士宮市の防犯カメラ整備について				富士宮市において、安全・安心の確保は、市政の最重要課題である。近年、全国的に通学路の安全確保、地域の見守り体制の強化、犯罪抑止のためのICT活用が進んでいる。 本市でも防犯カメラの設置が進められているが、他市の取組と比較すると、まだ改善の余地があると考ええる。 本市の防犯カメラの整備状況と防犯体制の強化について伺う。 (1) 富士宮市の防犯カメラ設置状況について。 ① 富士宮市内の防犯カメラ設置台数の推移について伺う。 ② 富士宮市独自の補助制度の拡充について伺う。 ③ 警察との防犯体制の連携強化について伺う。		市長 副市長 教育長 関係部長
3 富士宮市のカスハラ対策について				近年、自治体職員へのカスタマーハラスメント（暴言・威圧・不当要求・長時間拘束・SNSさらし等）が全国的に深刻化している。職員を守りつつ、正当な住民の声を損なわないため、組織的カスハラ対策をどう構築するのか伺う。 (1) 富士宮市の現状について伺う。 (2) 2026年10月から地方公共団体にもカスハラ防止措置が義務化されるが、組織としての対応方針について伺う。 (3) 全国ではカスハラ防止条例が制定されているが、富士宮市も制定の検討はされているか伺う。		市長 副市長 教育長 関係部長